

発行:太平洋核被災支援センター

<http://bikini-kakuhisai.jet55.com>

事務局 宿毛市山奈町芳奈2779-2 山下正寿

<masatosi.sky@orange.zero.jp>

I. 劇団燐光群・演劇「わが友、第五福竜丸」上演

12月13日、劇団燐光群による演劇「わが友、第五福竜丸」が高知市の県民文化ホール主催で約300名を集めて上演されました。

1954年3月1日、米のブラボー水爆実験によりマグロ漁船「第五福竜丸」や述べ1,000隻を超える他のマグロ漁船や貨物船が被災しました。この事件をテーマにした演劇で、11月より東京を皮切りに各地で上演されています。支援センターたより16号でお知らせしたように、8月、監督の坂手洋二さんは第五福竜丸平和協会事務局長の市田真理さんと共に高知県の被災漁民に聞き取りやフィールドワークをするなど準備をしてきました。

当日の演劇や会場の様子を、幡多ゼミ顧問の東さんからの臨場感たっぷりの報告を紹介します。



左から3人目が長津さん、4人目が坂手監督

燐光群「わが友、第五福竜丸」高知公演を観て

支援センター事務局・幡多ゼミ顧問 東加代

ある日、木造のマグロ漁船「第五福竜丸」が東京夢の島の展示館から忽然と姿を消した。どうして、誰が何のために…

物語は、第五福竜丸を見つけるために、被災した船員やその家族、核と関わる人たち、第五福竜丸展示館、静岡の焼津港、マーシャル、高知や和歌山の漁港、福島第一原発、ビキニの海へと、時空を超えて次々と展開する。そして、1954年にアメリカがマーシャル海域（以下、ビキニの海）でおこな

った水爆実験で延べ1000隻に上る日本の船が被災したことや、広島・長崎の原爆投下から現在までの核被災の実態を訴える。

ある場面で、「バラ抜き歌」が流れてきた。高知の浜辺なのだろうか。若い女性が被災船の調査をしている高校生と教員から話を聞いて、「お母さんが死んだのはおじいちゃんのことに関係するののか」と問いかけるが、被災船の乗組員だった祖父は答えない。劇中では詳しく語られなかったが、1985年頃、高知にビキニで被災した船があることを知った高校生と教員が地を這うような調査をし、口を固く閉ざしていた乗組員から被災の事実を明らかにしていった。この高校生たちの活動がなければ、第五福竜丸以外の被災船の事実は闇に葬られた可能性が大きい。

終盤にさしかかって、1954年3月1日、第五福竜丸が被災した場面は、圧巻だった。そこにビキニの海が広がっているかのようだった。「西の空から朝日が昇ってきたようだった。まだ、夜明け前なのに空全体が明るくなった。爆音の後の静寂、しばらくして、雪のような灰が降ってきた。」高知県幡多地域の漁村で聞いた話と同じだった。あの日、ビキニの海にいた人たちは同じ状況を目の当たりにしていた。

ビキニ事件から70年がたち、被災の様子を語る人たちが少なくなっているけれど、今も証言を続けている方や裁判で闘っている方、その家族や遺族、支援者がいる。これから知ろうとする人たちもいる。第五福竜丸は、核被災を巡る数々の悲惨な歴史的なできごとを記憶の片隅に追いやってしまったために、「わが友」として再び姿をあらわす、そう思いながら演劇を見終わった。ひとりでも多くの人たちがこの演劇を鑑賞して、核被災の実態を知ってほしいと心から願っている。

追記：2時間半、休憩がなく次々と展開される場面、膨大なセリフの量についていくのに必死でした。第五福竜丸を巡る出来事も知らなかったことが多く、たいへん勉強になりました

た。まだまだ消化不良の内容がありますが、これから咀嚼して自分のものにしていこうと思っています。

太平洋核被災支援センター事務局長の山下正寿氏は観劇の感動と感謝の感想を次のように述べました。

「昨日の『わが友、第五福竜丸』高知上演は、演劇の底力を感じる見事なものでした。見えにくい放射能汚染を見えるように演じていました。海水汚染・食物連鎖による人への影響を歴史的・科学的に伝えることに挑戦された演劇だと思います。特に、被災漁民の表情・しぐさ・動きがそっくりでした。高知の上演に特別に「バラ抜き歌」を生き生きと演じてくれたことに観客への熱い思いを感じました。ありがとうございました」

2. 幡多ゼミOB会の活動が活発化

・・・映画シナリオライター・長津晴子さんとの交流

幡多ゼミOB会の活動が昨年一連の取り組みにより元気になっています。5月ビキニデーin高知2023・幡多フィールドワークや高知市全体集会への積極参加、11月幡多ゼミ40周年OB会の開催、12月「わが友、第五福竜丸」の観劇などにより、OB会の活動が再開し活発になっています。

また、映画シナリオライターの長津晴子氏が「わが友、第五福竜丸」の観劇に参加され、ゼミOBと交流、翌日からゼミOBを案内役に幡多フィールドワークを実施しました。

実は、長津氏は第五福竜丸元漁船員・大石又七さんを主人公にした映画を製作する予定でした。しかし、5月ビキニデーin高知・幡多フィールドワークに参加した時ゼミOBたちの発言に感動、大石さんだけでなく、教科書を書き換えるほどの事実を発掘した高校生も映画の柱にしたいと考え、取材のためOBと接触します。それに応えてOBも長津氏と連絡を取り合っており、12月の観劇、幡多フィールドワークやOB、顧問との交流を企画したものです。その様子について、OBの2人の報告を紹介します。

○12/13 記録(津野奈緒)

12月13日から、脚本家の長津晴子さんが、ビキニ被災事件をテーマにした映画製作のために、高知に幡多ゼミの取材に来られました。13日夕方には、燐光群『我が友 第五福竜丸』の観劇の前に、坂手監督と長津さんと幡多ゼミOBで懇談しまし

た。高校生当時、第五福竜丸展示館へ行った時の事や、木造マングロ船・住吉丸を見つけた時の事など、当時の調査の話をしました。



道倉さんへの聞き取り

○12/14 記録(橋崎律子)

14日(木)は、朝、長津さん、東先生と一緒に県庁近くの木曜市を見学、長津さんは郷土寿司や土佐水晶文旦に「ほー！」と見とれていました。

9時過ぎに東先生の車で幡多へ。佐賀に入ると海岸線に「やっぱりきれいですねー」と長津さん。佐賀では、道の駅「なぶら」で奈路さんの写真を見ながら鰹のタタキ丼。タタキ丼にだし汁を入れて食べる食べ方に、長津さん驚きの新発見。佐賀漁港で鰹の箱詰め作業を見て、堤防や漁港を散策しました。

午後、喫茶で道倉さんの聞き取り取材をしました。

道倉さんは、当時のことをよく覚えていて、

- ・ 当時は、船にのるのを、親戚などから頼まれたら断りづらかった。
 - ・ ビキニで被災した時のこと、魚を捨てられた時のこと
 - ・ 当時の親方と船員との関係、船員保険はかけてない人もいたこと
 - ・ ソ連の漁港に立ち寄った時のこと
 - ・ 船員手帳がパスポートの代わりになること
 - ・ 船を降りてからも水産関係の社長をしていたことなどなど
- ほぼ2時間途切れなくお話してくれました。

最後に長津さんが、「道倉さんにとって、ビキニ被災事件とは、何ですか？」と尋ねると、「う〜ん、生活のためやねえ」と答えていました。

道倉さんは、英単語を交えてお話されるし、90歳とは思えない、エネルギッシュな方でした。

道倉さんを自宅まで送った後、入野の浜を散策、四万十川赤鉄橋を渡って、長津さん念願の宿毛市へ。

夜は長津さんを囲んで、OB、顧問で食事しながら交流会。

盛り上がった場面を一つ。

西野君のお父さんがマグロ船で（以下、西野くん談）、延縄をあげている時に、カジキマグロの嘴が太もみにささっていたのに気づかず、「太もみにささっちょうぞ！」と同僚に言われ、それを見て父さん、意識喪失。気が付いたら、外国の病院のベッドの上で、目の前に黒人の看護師さんの顔があり、「あなたどこのアフリカの国の人？」と言われたらしい（日本人なのに）。当時は、パンチパーマで顔も日に焼けて黒く、紫外線で肌もボロボロやったけんやろうねえ。

との話に、一同、びっくりしました。

また、西野くんがアニメプリキュアの大ファンで、「原作者の長津さんと会えるらあ、夢みたい！」と、アニメの話で盛りあがりました。



宿毛湾咸陽島と長津さん

〇12/15 記録(津野奈緒)

まず長津さんで行ったのは宿毛市田野浦の魚市場です。丁度競りが行われていて、許可をもらい見学しました。また、市場すぐ側の食堂では、漁師の奥さんが話を聞かせてくれました。長津さんも市場や漁師さん、食堂まで見られて良かったと喜んでくれました。

その後、大海の漁村を見て回り、内外ノ浦では藤井馬さん、節弥さんのお墓参りに。高い場所にあるお墓は、周りの木が生い茂って海が見えなくなっていました。帰り道、道案内をしてくれた近くのお婆ちゃんが「馬さんはええお婆ちゃんやった。前は高校生と先生がよう来よった。」と当時のことを話してくれました。

そして、咸陽島へ行き宿毛湾を眺めながら歩き、景色を見ながら長津さんは何度も「高知の海がきれい」と感動し写真や動画を撮影していました。午後はゼミ館へ移動、資料や写真をじっくり見て懇談しました。

私も普段行くことのない場所へ行き、話を聞くことができ、久しぶりにゼミ活動をしていた時の感覚を思い出しました。



梱包の様子（2022年の年末支援）

3. 原告・遺族の方々への年末支援

2023年末、原告・遺族の方々への年末支援を実施しました。年末支援は2019年に始まり今年で5年目になります。高齢で闘病生活を強いられている元被災船員の方や夫や父親を亡くし厳しい生活を乗り越えている遺族に、少しでも励ましの気持ちを伝えたいと続けているものです。お米や文旦、ひがしやま、海苔などを30人を超える方々にお届けしました。宿毛や大月、清水へは諏訪さんが直接配達しましたが、他の方へは郵送しました。同梱の水晶文旦は黒潮町の徳広恵也さんのご厚意でいただいたものです。

後日、太平洋核被災支援センター・事務局長の山下正寿氏には原告・遺族の方々からお礼の電話が届いています。多くの方から「ありがたい」「忘れられていないことがうれしい」、中には涙ぐんで「亡き父も喜んでくれていると思う」と感謝の言葉がありました。

原告・遺族の方々支援への感謝やなつかしい故郷との繋がりを覚えることがとてもうれしいと語られたことが印象的でした。

4. 「核兵器禁止条約発効3周年・ビキニ被ばく70年 県民のつどい」開催・・・県原水協と原水禁が共同で

1月20日、高知市の県民文化ホールで「核兵器禁止条約発効3周年・ビキニ被ばく70年 県民のつどい」が開催されました。85名の参加で実現したこの集いは県の原水協と原水禁が初めて共同で取り組んだ歴史的な平和集会となりました。

県原水禁代表委員・森川直只氏が「核兵器禁止条約が発効したが、日本政府は批准しないばかりかオプザーバー参加すらしていない。核兵器禁止条約発効3周年・ビキニ被ばく70年、その節目の年に原水禁、原水

協が初めて共同開催する意義は大きい。核兵器を廃絶するために全力をあげよう」とあいさつしました。

次いで第五福竜丸展示館学芸員・市田真理氏が「第五福竜丸が私たちに問いかけるもの」と題して講演、アメリカの水爆実験による日本の漁船員や現地マーシャルの島民らの被ばく実態について報告、高知の幡多ゼミの高校生の調査を契機に多くの漁船員が口を開く



市田真理さん

ようになったと述べ、「私たちは核兵器を使われる側に立たなければならない。それが被爆者の声に耳を傾けるということだ。第五福竜丸は核のない未来に向けて航海中、この航海にご一緒下さい」と訴えました。

講演後、県原水協事務局長・松繁美和氏が提案した「核兵器禁止条約批准は70カ国に達した。唯一の戦争被爆国、平和憲法を持つ国として核兵器廃絶を呼びかけ、核兵器禁止条約に一刻も早く参加しなければならない」とする集会アピールを採択しました。

最後に、県原水協代表委員・入江博孝氏が閉会あいさつを行いました。

参加者からは「第五福竜丸の元漁船員がねたまれ、被害を訴えることができなかったことを初めて知った」「第五福竜丸展示館を訪ね、真実を伝えていきたい」などの声がありました。

5. ビキニ集会代表派遣壮行会

2月16日、高知城ホールで「ビキニ集会代表派遣壮行会」が行われました。ビキニ被災から70年にあたる今年、マーシャルでの「核被災者デー」の式典に高知から3人の代表を送ります。遺族の下本節子氏は式典で報告することが決まっています。そして、静岡で開催される「ビキニデー集会」とそれに関連する集会に8人の代表が派遣されます。うち4人は報告者でもあります。

まず、日本原水協・土田弥生氏からオンラインでメッセージがあり、県原水協事務局長・松繁美和氏が「2024年3.1ビキニデー」について、パンフレットを使って学習を兼ねた説明を行いました。

マーシャルへはお土産が用意されています。岡村啓

佐氏のビキニ被ばく写真集「NO NUKES」、幡多ゼミDVD「核被災と核兵器禁止条約」と折鶴です。折鶴は室戸の元船員さんたちが、同じブラボー水爆で被ばくした現地マーシャルの方々へ、平和と友情の願いを込めて折りました。そして、その話を聞いた小学生が、自分たちも鶴を届けたいと頑張って折ったものです。

マーシャル訪問団長の濱田郁夫氏は「今年の『ビキニデーin高知』にマーシャル諸島共和国政府の職員エヴェレンさんが来てくれ、マーシャルの被ばく実態について報告、ぜひマーシャルへきてほしい、との要請に応じて参加を決意した。団員の下本節子さんは遺族として初のマーシャル訪問、それだけで意義深いものがありますが、今回我々のマーシャル訪問で交流の絆をより深めてきたい」と述べました。静岡集会を含めて、第五福竜丸だけではないビキニ被災や核被災の真実を高知から大きく発信していきましょう。

6. 「ビキニデーin高知2024-核被災フォーラム-」 もうすぐです。高知で話し合い交流しましょう！

ビキニデーin高知2024-核被災フォーラム

会場：ソーレ

日程：5/11(午前)オプションツアー

Aコース：草の家 →自由民権祈念館

Bコース：牧野植物園 →草の家

(午後)文化行事・シンポ →(夜)夕食交流会

5/12：(午前)分科会 →(午後)分科会 全体会

○文化行事

VTR「荒海に生きる」…元船員さんの語り

○マーシャル訪問団報告

○シンポジウム (コーディネーター：間間元医師)

内藤雅義弁護士「ビキニ被災」

斎藤紀医師「被ばくと医療」

高橋博子教授「核開発から核廃絶」

○分科会

第1分科会「核被災と救済を求めるたたかい」

第2分科会「核被災と平和運動」

第3分科会「核被災と平和学習・教育」

参加費 2,000円 学生無料

【申し込み・問い合わせ先】高知県原水協

Tel/Fax: 088-875-3917

E-Mail: kochigensuikyou@outlook.jp